

源空寺保育園 令和3年度 保育の内容に関する全体的な計画 (編集作成:園長 珠山信孝)

令和3年4月1日現在

事業の目的		心身ともに健やかに育成されるよう乳幼児期の教育・保育を行うほか、保育所保育指針に掲げる目標が達成されるよう教育を行うことを目的とします。			保育理念(事業運営方針)		入園児童の心身ともに健やかな育成のため、最低基準を超えた設備及び運営の向上に努めます。また、各種の保育事業に取り組み、入園児童、保護者及び地域への社会的責任を果たします。その際、よりよい「家庭環境」を支援するために利用される方に対して最善を尽くすことを誇りとします。						
保育方針		児童福祉の精神を生かし、主体性のある望ましい人間像に向かって保育する。			園の保育目標		1仏教行事を天切にして、手を合わせる、ありがとう、ごめんなさいの言える子に育てる。 2造形的あそびを大切に、自己表現、精神衛生、主体性を育てる。 3音楽あそびを大切に、発達段階をふまえ、音感あそびや合奏あそびによる協力、主体性、責任の心を育てる。 4自然を大切に、命の尊さを知り、命を大切にすることを養うため、動物の飼育や花や野菜を育てる。						
子どもの保育目標 (保育目標・保育の内容ともに年間指導計画の基礎事項・年間指導計画・行事のねらいは別紙)		乳児	生理的欲求を満たし生活リズムをつかむ	3歳児	身近な仲間や自然等の環境と積極的に関わり、意欲を持って活動する	保育時間など		2・3号認定/基本保育時間 標準認定7:00~18:00 短時間認定8:30~16:30 延長保育時間 標準認定18:00~19:00 短時間認定 7:00~8:30 16:30~19:00					
		1歳児	行動範囲を広げ探索活動を盛んにする	4歳児	信頼感を深め、仲間とともに感情豊かな表現をする	主な行事(日常の節目としての行事設定)		入園式/始業式/誕生会/動物園見学/親子遠足/健康診断/保育参観日/運動会/海水浴/七夕/スイカ割り/子育て講演会/白組親子研修/音楽発表会・あゆみ展/おゆうぎ会/豆まき/創立記念式/給食試食会/おゆうぎ会/卒園式/修了式					
		2歳児	象徴機能や想像力を広げながら集団活動に参加する	5歳児	集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる								
■保育所保育に関する基本原則/役割目標		■保育の方法/環境		■保育所の社会的責任		■養護に関する基本的事項		■保育の計画と評価		■幼児教育を行う施設として共有すべき事項		◎小学校との連携(接続)	
児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもの保育を行い、健全な心身の発達を図る。保育に関する専門性を有する職員が、養護及び教育を一体的に行う。保護者支援及び地域の子育て支援等を行う。		健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を整え、一人一人の発達過程に応じ、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育する。保護者を理解し適切に援助する。		人権に配慮する。子どもの人格を尊重し保育を行う。地域社会との交流や連携を図り、保育の内容を適切に説明する。個人情報等を適切に取り扱う。保護者の苦情解決を図るよう努める。		養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わり。保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行う。養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育を展開する。		保育の目標を達成するため、方針や目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえた保育の内容が組織的・計画的に構成され総合的に展開されるよう、全体的な計画を作成する。これに基づき指導計画、保健計画、食育計画等を作成する。保育士等の自己評価、保育所の自己評価を行い、公表し、保育内容の改善を図る。		生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、保育の目標を踏まえ、資質・能力の3本の柱を一体的に育むよう努める。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、ねらい及び内容に基づく保育活動全体を通して資質・能力が育まれていく子どもの小学校就学時の具体的な姿であり、保育士等が指導を行う際に考慮する。		保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う。育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教師との意見交換、研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなどして、保育所保育と小学校教育との円滑な接続に努める。子どもに関する情報共有に関して、就学に際し、市町村の支援の下に、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されるようにする。一昨年度より山口県教育委員会の指定を受け、「つながる子どもの育ち大会」の発表に向けを明新小学校と連携して研修している。	
■保育の目標		ア 子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う。 (ア) 生命の保持及び情緒の安定を図る (イ) 心身の健康の基礎を培う (ウ) 愛情と信頼感、人権を大切にすることを育てるとともに、自主、自立及び協力の態度を養い、道徳性の芽生えを培う (エ) 生命、自然及び社会への興味や関心を育て、豊かな心情や思考力の芽生えを培う (オ) 言葉への興味や関心を育て、言葉の豊かさを養う (カ) 豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う											
■養護(保育士が行う事項)		年齢	乳児	1歳児(満1歳より)	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	◎小学校以上の連携に鑑みて 育みたい資質・能力について、小学校の教科との連携を考えたカリキュラムを構築していく必要があると考え、育ってほしい10項目を、小学校の教科に重ねて保育を実施していく計画である。				
		生命の保持	●生理的欲求の充実を図る	●生活リズムの形成を促す	●適度な運動と休息の充足	●健康的生活習慣の形成	●運動と休息のバランスと調和を図る	●健康・安全への意識の向上					
		情緒の安定	●応答的な触れ合い ●情緒的な絆の形成	●温かなやり取りによる心の安定	●自我の育ちへの受容と共感	●主体性の育成	●自己肯定感の確立と他者の受容	●心身の調和と安定により自信を持つ					
◎ねらい及び内容並びに配慮事項(養護と教育は一体となって展開されることに留意)													
◎教育 (園児が環境に関わって経験する事項) ※乳児は3つの視点、幼児は5つの領域で区分されている。(基本的事項を十分に参照) ※指針では乳児と満1歳に区分されているので、満1歳を迎えた場合は1歳児の5領域を参照。 ※子どもの発達や成長の援助をねらった活動の時間については、意識的に保育の計画等に位置付けて、実施する。なお、活動の時間については、保護者の就労状況等に応じて子どもが保育所で過ごす時間がそれぞれ異なることに留意して設定する。		(乳児) 3つの視点	乳児	(満1-3歳未満児) 5領域	1歳児(満1歳より)	2歳児	(3-5歳児) 5領域	3歳児	4歳児	5歳児	■幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目 ■教育・保育において育みたい資質・能力の3本の柱		
		健やかに伸び伸びと育つ	●身体機能の発達 ●食事睡眠等の生活のリズム感覚の芽生え	健康	●歩行の確立による行動範囲の拡大 ●排泄の確立 ●運動、指先の機能の発達	健康	●意欲的な活動 ●基本的生活習慣の確立	健康	●健康への関心 ●体全体の協応運動	●健康増進とさらなる挑戦への意欲			
		身近な人と気持ちを通じ合う	●特定の大人との深い関わりによる愛着心の形成 ●喃語の育みと応答による言葉の芽生え	人間関係	●周囲の人への興味、関心の広がり ●自己主張の表出 ●友達との関わりが増大	人間関係	●道徳性の芽生えと並行遊びの充実	人間関係	●仲間との深いつながり	●社会性の確立と自立心の育成			
		身近なものと関わり感性が育つ	●身近なものと関わり感性が育つ ●身体の諸感覚認識による表現	環境	●好奇心を高める ●自然事象への積極的な関わり	環境	●身近な環境への積極的な関わり	環境	●社会事象への関心の高まり	●社会、自然事象へのさらなる関心と生活への取り入れ			
★健康支援/状態把握・増進・疾病対応		★食育の推進(食育計画別紙)			★環境及び衛生管理並びに安全管理(危機管理計画別紙)			★災害への備え(避難計画等別紙)		◆子育て支援(子育て支援計画別紙)		△職員の資質向上(研修計画別紙)	
●健康及び発育発達状態の定期的、継続的な把握 ●年2回の嘱託医による健康診断(内科・歯科) ●登園時及び保育中の状態観察、また異常が認められたときの適切な対応 ●年間保健指導計画(年齢別参照) ●年1回職員健康診断及び毎月の検便(調理員・調乳担当者) ●嘱託医園内点検 ●障害を持つ児童を担当する職員の配置		5領域との相関性を構築する。 ●栄養バランスを考えた自園給食の提供 ●食育活動の実施 ●全園児へ炊き立てご飯の提供 ●行事食の提供 ●菜園作りの実施 ●クッキングの実施 ●給食試食会の実施(本年度は中止)			●施設内外の設備、用具等の清掃及び外部業者による消毒等、安全管理及び自主点検 ●子ども及び職員の清潔保持 ●感染予防対策指針の作成と実施及び保護者との情報共有 ●インフルエンザ対応 ●新型コロナウイルス感染対策 ※外部業者による点検及び園庭整備			●避難訓練(火災、地震、不審者対応)の実施(毎月) ●幼年消防クラブ活動 ●消防署視察 ●被災時における対応と備蓄 ※外部業者による消防設備点検(自治体事業)		教育及び児童福祉としての保育並びに子育て支援の有機的な連携が図られ、子どもの成長に気持ち、子育ての喜びが感じられるよう子育て支援に努める。		質の高い保育を展開するため、一人一人の職員についての資質向上及び職員全体の専門性の向上を図るよう努める。保育所職員に求められる専門性を理解し、保育の質の向上に向けた組織的な取り組みを行う。職場研修、外部研修など体系的な研修計画を作成し、結果を活用する。全職員にキャリアアップ研修を受けるよう計画している。	
情報公開等		●人権尊重 ●虐待確認保護 ●個人情報保護 ●苦情処理解決対応及び第三者委員、運営協議会設置 ●ホームページの開設 ●給食試食会											
地域の実態に対応した保育事業と行事への参加		人的物的面の確保、保育教諭の確保により乳児保育を含む3歳未満児の受け入れを推進。敬老会、文化祭、消防フェスタ等の地域の行事に参加。(社会及び地域貢献)。老人福祉施設への慰問。職場体験、看護実習等の受け入れ。											
自己評価等		●適切な施設運営管理の評価 ●保育所の評価(全体の反省による全体計画等の反映) ●保育士等の評価(自己評価と子どもの評価の確立) ●自己チェックリストの実施と危機管理マニュアルの作成、習得											
保育所保育指針の各章とマークの対応 第1章＝■ 第2章＝◎ 第3章＝★ 第4章＝◆ 第5章＝△													

特色ある教育と保育 ●各クラス複数の担当保育士を配置し、きめ細やかな保育を実施●多元的知的能力を育む教育(絵画、体育、英語活動他) ●音楽、身体を通じた表現活動●和太鼓の演奏

研修計画 ●保育指針対応の園外・園内研修の継続 ●講師を招いての園内研修 ●先進地視察見学 ●園外研修への計画的な参加(県外研修、研修所主催研修) ●処遇改善